

技能実習生の日本語学習と使用に関する研究 ーベトナム人実習生へのインタビューからー

湯本礼士

東京学芸大学大学院 教育学研究科 国語教育専攻 日本語教育コース
m141431m@st.u-gakugei.ac.jp

1. 研究動機と背景

1.1 動機

2011年から2013年末までの3年間、ベトナム北部にある技能実習生の送り出し機関で、日本語教師として、技能実習生の渡航前の日本語教育に携わった。その間、技能実習生や渡航前の日本語教育に対して疑問を抱いたことが本研究の動機である。

- ・ベトナム人実習生たちはどのようなバックグラウンドをもっているのか。
- ・日本で実習生たちの日本語の使用と学習の実態は。
- ・来日後、実習生たちは、渡航前の日本語学習に何が必要だと考えるのか。

これらの疑問に対するフィードバックを、実習生に直接インタビューを行って取ることで、彼らが、日本で技能実習生として働き、暮らしていく上での日本語の課題や問題を捉え直し、渡航前の日本語教育や、日本で働いている実習生たちの日本語の学習の改善に役立てることが、本研究の目的である。

1.2 社会的背景

2008年のリーマン・ショック、2011年の東日本大震災後、日本で働く研修生・実習生の数は減少している。特に、そのほとんどを占めていた中国からの研修生・実習生は、2009年では40,841人の入国申請があったが、2013年には28,985人までに落ち込んでいる。一方で、数が増えているのがベトナムからの実習生である。2009年ではその数が2,692人であったのが、2013年には6,248人にも及んでいる。全体に占める割合は中国からの実習生がその大半を占めているが、それに次ぐのがベトナムとなっている（総合情報誌『かけはし』2014年7月 VOL.118、より）。

また、技能実習制度を利用した、介護分野での実習生の受入が決定しており、厚生労働省は2015年度中の受入開始を目指している（『朝日新聞DIGITAL』2015年1月27日より）。これまで、受入の要件に日本語能力はなかったが、介護分野においては「日本語能力」も受入要件の一つとされる。これをきっかけに従来の業種の技能実習生にあっても、渡航前の日本語教育のあり方を見直すこと、来日後の日本語の使用や学習の実態を知ることは、意味のあることだと考えられる。

2. 先行研究・関連研究

これまで技能実習制度そのもの、あるいは技能実習生の生活を社会科学的な観点から取り上げた研究が多く、日本語学習者としての技能実習生の日本語や、技能実習制度における日本語教育、特に渡航前の日本語教育を扱った研究、実習生あるいは実習現場からの視点にたった研究の数は少ない。しかし、それらの研究の中からも、実習生のバックグラウンドや、日本での日本語の使用実態、学習状況などを知ることができる。

2.1 ゲン・ティ・ホア・サー (2013)

外国人技能実習制度のあらましと、それをとりまく社会環境、そして問題点を述べ、さらにベトナム人の実習生へインタビューを通して、基礎調査を行い、彼等の社会的なバックグラウンドに触れている。実習生たちが直面している問題の中で、来日前に日本語研修を受けていないものが、従業員からの指示を把握しにくいということをあげている。渡日後の勤務時間は、渡日前に比べ長いために、日本語を学習する時間は、ほとんどなく、日本語教育能力検定などで、中上級以上の試験に合格して帰国するものはほとんどいない、と言っている。また、農業研修生の場合では、企業研修生に比べ、比較的自由になる時間があっても、日本人と接触する機会が限られているために、日本語学習への意欲が沸かないと述べている。

2.2 落合 (2010)

この研究においても、外国人技能実習生度のあらましについて述べ、インタビューを通して、実習生たちがどのような経緯を経て、働いているのか、そして、その生活実態と意識について調査しており、インドネシアの送り出し機関での厳しい派遣前教育の様子を知ることができる。

インタビューを行なった7人の実習生（中国人5名、インドネシア人2名）から聞き取ることのできた日本語学習意欲についても触れている。当該の7人は、みな比較的日本語学習意欲が高く、地域での日本語講座・教室への参加経験がある。職場や生活する上で、日本語を話す機会があるかどうか、また実習生の周りに積極的に干渉してくれる日本人がいるかどうか、学習意欲の維持に大きく影響しているようであると、その意識による分類を行なっている。

2.3 トン岩／浅野 (2001)

この研究では、縫製業における中国人技能実習生・研修生の日本語習得と社会諸関係の実態、そこでの問題の解明を試みている。

まず、研修生・技能実習生と日本語の習得についてふれ、効果的な技術習得、危険や自己の回避、円滑な日常生活、日本・日本人の異文化理解、さらにホームシックやストレスといった精神衛生面に至るまで、日本語の習得が研修生、受入側の双方にとって重要な意義を持つことを、関連調査などの指摘をもとに述べ、両者の満足度、研修先でのトラブルの発生の頻度が、実習生の日本語能力の水準と相関しているという指摘も多いとしている。

しかし、そこでの日本語教育には、様々な問題があるとし、日本語教育を主とする座学が規

定通り実施されていないケースが少なくないこと、実施されていても属性の多様さ、時間などの様々な制約・困難があること、さらに実地研修においては単なる「サバイバル・ジャパニーズ」にとどまらない比較的高い水準の高い日本語が必要とされることを述べ、結果として、実地研修の現場では、言葉の習得に基づく深刻な問題が頻発し、「日本語の壁」が解決すべき大きな課題として指摘されている。

3. 調査・研究方法

調査対象は、日本に滞在中のベトナム人技能実習生と、実習修了後、ベトナムへ帰国した元実習生である。いずれも調査者である筆者が勤務していた送り出し機関で直接日本語教育に携わった。

調査方法は、対面式またはインターネットのビデオ電話を用いて、半構造化インタビューを行い、聴取したデータを分析した上で、個別に追加、補足のインタビューを行う。

調査内容は、おおまかに（１）実習生の基本情報、（２）送出し機関での日本語学習、（３）来日後の職場や生活の場面における日本語の使用と学習について、である。実習を修了してベトナムに帰国している対象者に対しては、調査時点での日本語の使用と学習に関しても調査を行う。

4. 調査状況

4.1 予備調査

予備調査として、現在日本で働いている実習生二名にインタビュー行なった。

S	男性	2015年5月3日	対面	南関東	溶接	来日2年
A	女性	2015年5月6日	ビデオ電話	山陰	水産加工	来日1年半

インタビューの詳細はここでは省略するが、二名とも、来日して数ヶ月した後は、仕事や生活の場面において日本語を使用する機会は筆者が考えていたよりも少ないこと、日本語の問題で不自由や困難を感じたことが、ほとんどないということが分かった。日本語の学習に関しては、二名とも「もっと日本語がうまくなりたい。」ということ述べているが、Sに関しては、地域の日本語教室など、周囲に日本語を学べる場所がないことなどから、日本語の学習から遠ざかっているようである。一方、Aには、地域のボランティアによる日本語教室に週一回参加し、日本語の学習を継続しているようである。

4.2 本調査

予備調査の後、3年の実習を終えベトナムに帰国した実習生 0B・0G18名にインタビューを行なった。18名の職種は、農業、食品加工、建設、溶接、プラスチック、旋盤、金属加工で、中部、近畿、中四国、九州で実習を行っていた。

現在、聴取したデータの整理を行なっている段階だが、予備調査の二名と同様に、ほとんどの調査対象者が、来日後の数ヶ月を経て一旦慣れてしまうと、職場、生活の場面、どちらにおいて

も、日本語使用する機会は少なくなり、日本語の問題による不自由や困難が生じることがほとんどないと答えた。少ないが困難を感じた例としては、体調不良で病院へ行かなければならなかった時と、自転車の電灯をつけておらず警察に職務質問を受けた時があった。しかし、そのどちらも管理団体の通訳や、受入企業の日本人の助けにより事なきを得ている。

4.3 今後の調査

元実習生の18名のデータを整理、分析を行うとともに、引き続き、現在日本で働いている実習生にインタビューを行う。可能であれば、地域の日本語教室などで実習生と関わりのある日本人にもインタビューを行い、聴取したデータを総合、分析した上で、さらに追加・補足インタビューを行い、考察をすすめる。

参考文献

- 落合美佐子 (2010)「外国人研修生・技能実習生の生活実態と意識ー語りの中から見えてくるものー」 『群馬大学国際教育・研究センター論集』 第9号 pp51-68
- グエン・テイ・ホアン・サー (2013)「日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生」『佛教大学大学院紀要』 社会学研究科篇 第41号 pp19-34
- トン岩、浅野慎一 (2001)「縫製業の中国人技能実習生・研修生における日本語習得と社会的諸関係に関する実証研究」 『神戸大学発達科学部 研究紀要』 8(2):pp183-210
- 国際研修協力機構 「外国人技能実習生・研修生統計(2014年4月末)」『かけはし』第23巻 118号 pp27
- 朝日新聞デジタル 2015年1月27日付「外国人の介護実習生、日本語条件は「小学校低学年程度」
- J.V ニュースブニー 宮崎里司 (2007)『言語研究の方法』くろしお出版 pp125-142